

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サンスターオフィス新築工事(コミュニ)	階数	地上3F
建設地	大阪府高槻市明田町	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	220 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2020年11月15日
敷地面積	18,341 m ²	作成者	鹿島建設
建築面積	2,709 m ²	確認日	2020年11月15日
延床面積	7,015 m ²	確認者	鹿島建設



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 大阪府高槻市の阪急線沿いに消費財メーカーの本社オフィスビルを新設する計画である。「コミュニケーション」「ウェルネス」「イノベーション」を生み出すオフィスを目指す。		その他 0
Q1 室内環境 ・床吹き出し、床輻射を中心とした居住域空調 ・潜熱分離型空調による快適な湿度制御。 ・トップライト、ルバー等からの自然採光。 ・国際規格DALIによる個別照明制御。	Q2 サービス性能 ・リフレッシュエースが執務スペースの1%以上 ・インテリアベースで検証しつつ照明計画と一体となった内装計画。 ・建築基準法の基準の1.25倍の耐震性	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地の広い範囲を緑化し、生物環境の保全に配慮 ・閉鎖感を感じさせない外周部とし、まちなみに配慮
LR1 エネルギー ・自然採光、自然通風等を積極的に取り入れる計画 ・高効率な設備機器の採用 ・BEMSによるエネルギーモニタリング	LR2 資源・マテリアル ・節水型機器の採用	LR3 敷地外環境 ・自転車の利用、十分な駐車場の確保による空調負担抑制 ・日影に配慮した計画 ・光害に配慮した外構照明計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0090

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	サンスターオフィス新築工事(コミュニケーションパーク)					
	建設地	大阪府高槻市明田町					
	用途/区分	事務所 飲食店					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					3	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

報告しない

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	4.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.9	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.8	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		